

立川で歌

1

立川と語ろう 立川に生きよう
January 2004
écoutez bien Vol.22 No.230



多摩川河畔は、自転車爱好者には良く知られたサイクリングコースでもある。本流では河口部の大師橋から玉川上水取水口のある羽村堰まで、一部途切れる部分もあるがサイクリングロードが続く。休日にはさまざまな自転車に乗った人でにぎわう。



走って、河畔の風となる

多摩川サイクリングロードを行く



写真：五来孝平

広々とした風景のなかを
風を受けて走る



天気のいい休日、多摩
川畔の道は自転車や散
歩の人でにぎわう



サイクリストたちが
集まる登戸駅近くの
茶店



立川市内の自転車爱好者グループ「多摩路男」のみなさんと、自転车道がいちど途切れても少し国立市側に入った中央自動車道下付近から、下流の川崎市多摩区、JR南武線と小田急線登戸駅近くまで走った。

スピードを出して走っていくロードレーサー、のんびりと犬を散歩させながら走っている人、悪路に強いマウンテンバイク、仰向けに寝そべった姿勢で走るタルタルーガ等々、思い思いに自転車を楽しむ人が多いことに驚かされる。

左岸の堤防や河川敷を上下する道を、散歩などの人に注意しながら走る。あたりの風景が徐々に変わってゆき、川を渡る風が心地よい。狛江市の多摩水道橋を川崎側に渡るとすぐ登戸駅。同じコースを戻って往復約40km。多摩川ベリはアップダウンが少ないので、初心者や子どもでも走りやすいという。

立川から上流に向かって羽村堰まで走るのもいい。少し足を伸ばして、秋川沿いにJR武藏五日市駅近くまで行くコースや、多摩ニュータウンまで行くコースもある。今度はどこまで走ってみようか……。

立川から、心の豊かさをかたちにしていきたいな。



於：富士見町の自宅で

芳賀 ご家族で立川永住を決められたそうですね。

しおみ 今まで借りて住んでいたこの家をひょんなことから買うことになって……。横浜、国立と転々と移り住んできたんですけど、立川に住むようになって初めて、自分の街という意識を持ったんですね。それは赤川政由さん、さとうその子さんご夫妻など素敵な人たちとの出会いが大きいんですけど、自分の街のために何かしたい。その拠点がほしい、ということで永住することにしました。

芳賀 しおみさんと初めてお目にかかったのは、たしか国立のギャラリーだったと思うんですが、その時から、と

にかくいろんなことをされているのに感心していました（笑）。10月29日には「アミューたちかわ」で、ガンと闘病しながら一人芝居をされている女優・平泉緋沙さんの舞台を実現させましたね。

しおみ 何をしているんですか？ と聞かれて説明するのがいちばん大変なんです（笑）。フリーのプロデューサーということになるんですが、学校を出て最初は今でいうフリーター。アルバイトをしては旅をする暮らしをしていて、たまたまアルバイト先の人にテレビ朝日のスタジオに連れて行ってもらったんです。そこで女性でコマーシャルのライターをされていた方と出会って、

その方の紹介で企画会社を紹介されてトントンといろんな仕事を任されるようにならったんです。若くて経験もないのによくやらせてくれたと思いますけど、スタイリストから台本書きまで、がむしゃらに何でもやりました。その頃みっちり叩き込まれたことが、現在の基礎になっていると思います。

芳賀 コマーシャルから、音楽や演劇、美術と広がっていった？

しおみ 1979年に友人とOL二人でシェーンベルク作曲「月に憑かれたピエロ」の公演を企画したんです。パントマイムは日本の第一人者のヨネヤママコさんしかない、と一面識もないのにお電話をしたら「この作品は19歳のときにやろうとして難しくて消化できなかったから」と引き受けたださった。今考えると私も友人も何の経験もないのに「やりたい！」という思いつきだけでよく実行に移したと思いますけど、とにかくやってしまったたら大盛況。平泉緋沙さんもヨネヤマさんの流れを汲む古いつき合いの友人ですし、その公演にクラリネット奏者として当時東京芸大生だった夫もいたというわけ。

芳賀 じゃあ「月に憑かれたピエロ」は、しおみさんにとって原点みたいなものだな。

しおみ そう、原点ですね。そこで出会って夫と結婚して、彼を通じて音楽や演劇関係と、どんどん出会いが広がって……。夫たちが自主演奏会を続けているのでその制作を引き受け、そのうち音楽でも演劇でもアートでも、人や作品に惚れ込むと、よし！ 私ができるることはやってやろう！ と。プロデューサーというのは企画だけじゃなくて、

物事を動かすための段取りを考え、山のようにある雑用を片づけ、気を遣い、営業もして……要するに縁の下の雑用係。それもスーパー雑用係かな？ でも、関わり方が総合的に多岐にわたって面白い。黙って見ていられない世話焼き人間に向いているのね。

芳賀 お話をうかがっていると、民話の「わらしへ長者」みたいに出会いがあってトントンと進んだみたいだけど、出会いを豊かな広がりにつなげられるのは人にもよるんじゃないかな？ 出会ったとしてもそれ違ってしまうことが多いでしょう。

しおみ 私は「何でも見てやろう、何でもやってやろう」で生きてきたわけですが、これは両親の影響かな？ 小さい頃からやりたいことは何でもやらせてもらいましたから。実業家だった父は、姉弟のなかでも私にはやりたいことはすべてさせてくれました。自身が遊び人だったこともあるのかもしれないけど、信頼してくれていたのかもしれませんね。母はたまに「あなたはいろんなことをやったけど、どれもモノにならなかつたわねえ」と言いますけど「いいえ、何ひとつ無駄にはなっていません」（笑）。学校を出たばかりの夫と結婚するときも、周囲のほとんどが反対したのに、両親は「お金と結婚するわけじゃない。自分がやりたいことを持っている方が大事だ」と応援してくれた。

芳賀 ご両親はすごいなあ。でも、そういう生き方をしたいと思ってもなかなかできるものじゃない。

しおみ 感謝しています。私の大好きな音楽評論家の田川律さんがよく「俺が俺がのくが」を捨ておかげおかげています！

プロデューサー しおみ えりこさん

■しおみ
えりこ（しおみ・えりこ）／昭和27年（1952）北海道札幌市生まれ。大学を中退しテレビ関係の企画会社勤務などを経て、数々の音楽や演劇、美術、パフォーマンス、イベントの企画、プロデュースを手がける。
夫のクラリネット奏者・橋爪恵一さんとアーティスト集団カーニバルカンパニーを設立。立川を拠点に多彩な文化活動の企画運営にあたっている。
■芳賀敏博（はが・としひる）／えくてびあん編集人

富士見町	一級建築士事務所 株式会社 ホーミー 富士見町2-12-3 522-2220 室内装飾専門店 株式会社 アイアイ 富士見町4-9-8 522-5972 多摩中央信用金庫 富士見町支店 富士見町4-9-22 528-1741 酒 ESPOA おぎの 富士見町4-17-7 522-4500 株式会社 一如社 富士見町5-1-7 527-2211 株式会社 立川印刷所 富士見町5-6-15 524-3268 SHOP99 立川富士見町店 富士見町6-15-3 540-1799
砂川町	JA 経済センター 立川店 砂川町2-44-3 536-1824 JA 東京みどり 立川支店 砂川町2-44-3 536-1821
柏町	スリランカカレー アジアンフーズ 柏町1-13-9 536-7061 沖縄料理・古酒 KINGS CROSS 柏町3-1-2 536-1774 ベーカリー リオンドール 柏町3-3-5 535-4882
泉町	ピーコック 玉川上水店 柏町4-1-2 538-3861 菅家医院 柏町4-2-15 536-4602
曙町	うなぎ専門店 うなちゃん 柏町4-61-13 536-6240 レストラン&BAR WEST PORT 柏町4-64-3 536-4569 東京消防庁立川消防署 泉町1-156-1 526-0119
和菓子・甘味処 甘泉堂 暮町1-14-12 522-4305 不動産 大晋商事 暮町1-23-9 525-3110 蕪麦懐石 無 暮町1-28-5 524-0512	

えくてびあんの舗
人がゐて、街があります。
あなたがゐて、立川があります。
そこにちょっとだけ、えくてびあん！
リストのお店にはいつでも、えくてびあん！

今日は富士見町・砂川町・柏町・泉町・曙町のお店です。

曙町	ピストロ シェ・タスケ 暮町1-28-14 527-5959 あら井鮨総本店 暮町1-30-13 522-2957 Cut Studio SOFIA 暮町1-30-21 528-3241 三田花店 ルミネ立川店 暮町2-1-1-1F 527-5587 KIRIN COFFEE ルミネ店 暮町2-1-1-1F 527-3232 オリオン書房 ルミネ立川店 暮町2-1-1-7F 527-2311 印 章 印 德 ルミネ立川店 暮町2-1-1-7F 527-1260 東京赤十字血液センター 暮町2-1-1-9F 527-1140 和生菓子製造直売 日の出屋 本店 暮町2-2-18 522-3308 オリオン書房 第一部店 暮町2-2-25-3F 523-3311 お菓子の家 エミリーフローラ 本店 暮町2-2-25-3F 523-3311 キャフェ クリムト 暮町2-5-1-2F 526-3030 宮地楽器 MUSIC JOY 立川北 暮町2-5-18-7F 527-6888 三井住友銀行 立川支店 暮町2-6-11 522-2151 Italian Cuisine サヴィニ 暮町2-7-10 525-1662 Art & Coffee Room 新紀元 暮町2-7-21-4F 528-6952 多摩中央信用金庫 本店 暮町2-8-28 526-1111 たましんギャラリー 暮町2-8-28-9F 526-1111 三上鰯節店 暮町2-8-30 522-3259 旬彩懐石 若草茶屋 暮町2-8-30 526-0010
----	---

日本一から世界へ！

昭和第一学園高校自転車競技部 畑中勇介さん

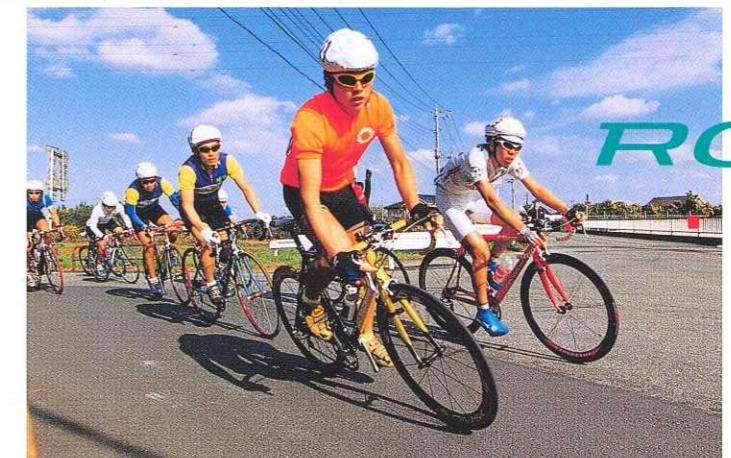
立川市栄町にある昭和第一学園高校自転車競技部3年の畠中勇介さんが、自転車ロードレースで全国高校選抜、全日本ジュニアを制し、10月カナダ・ハミルトンで開かれた世界選手権完走という快挙をなしつげた。今春高校を卒業後は、フランスのチームで競技生活に入る。世界の自転車競技者のあこがれ、ツール・ド・フランスで走る勇姿が楽しみだ。



畠中さんはチームの中心的存在。
1年生の多い今大会も彼が引っ張る

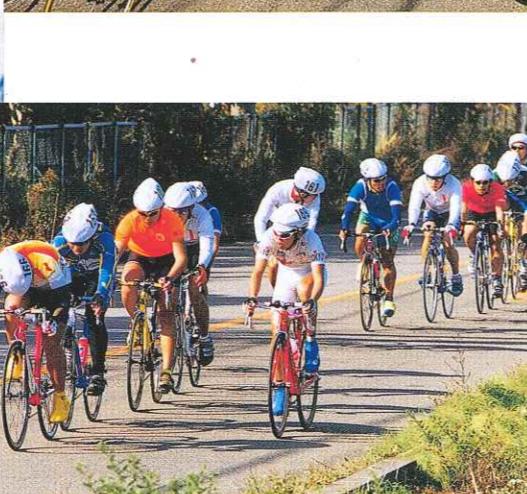


80台以上が参加する高校生の部は激しいばぜり合いになる



**ROAD
RACE**

写真：五来孝平



フィニッシュ前の猛ダッシュ

勤労感謝の日の11月23日、埼玉県久喜市で開かれた秩父宮杯埼玉県自転車道路競走大会。出場した昭和第一学園高校チームに畠中さんの姿があった。

今年の活躍はめざましい。昨年末に日本自転車競技連盟のアテネ五輪強化指定選手に選ばれ、春の全国高校選抜大会で優勝、6月に開かれたジュニア全日本選手権も堂々ぶっちぎりで制した。10月のカナダ世界選手権では88位ながら高校生が世界の強豪を相手に完走した。

ツール・ド・フランスにあこがれて自転車を始めたのは中学時代。高校に入ってすぐにインターハイ地区予選優勝。エースとしてチ

ームを引っ張ってきた。八王子の自宅から自転車で通学し放課後の練習で30~40km走る。週末には五日市や奥多摩のアップダウンの多い公道を60~80kmの練習。自転車競技部顧問の伊藤栄一郎先生も「練習方法も自分で工夫し、畠中についていくことでチーム全体のレベルが上がった」と高く評価する。

今年最後のレースとなった秩父宮杯は接戦となり、昨年優勝している畠中さんは4位に終わった。レース後「一瞬のミスが順位に大きく響くのが自転車。前に優勝したからといって油断できないんです」と語る畠中さんの眼は、すでに世界のプロ志望者が集まるフランスに向かっているようだ。

今春にはフランスで競技生活に入る



立川と多摩地域が
もっと楽しいホームページ

多摩てばこ ネット

<http://www.tamatebako-net.ne.jp/>

多摩てばこネット編集工房
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武蔵ビル2F
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609
e-mail message@tamatebako-net.ne.jp

常樂我淨

真如苑提供番組

スカイパーエクTV 216ch、マイ・テレビ 84ch

土曜 午前9時~9時15分
午後7時15分~7時30分
再放送/火曜 午前9時~9時15分
午後7時45分~8時
放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて六十七年

真如苑
柴崎町1-2-13 Tel.527-0111(代)

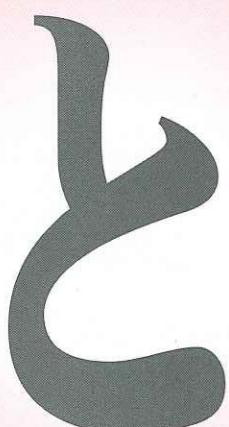
SEIBU 西武信用金庫

立川南口支店

〒190-0023 立川市柴崎町3丁目5番15号
tel. 042-529-1311 fax. 042-529-1316

私たち「と」のための会社です。

人と人、企業と企業、企業・商店とおさまさ……
いろいろなコミュニケーションがあります。
私たち大廣社は、この「と」を的確に、迅速に、効果的に、
行なっている会社です。



大廣社は、企画デザインから
印刷加工までを自社内で行っています。

PLANNING・DESIGNING
PROCESSING・PRINTING
大廣社
〒190-0022 東京都立川市錦町5-17-13
FAX 042-1949
042-527-1911 E-mail info@daikousya.jp

えくてびあん流

温故知新の古村めぐり

立川には6つの〈歴史と文化の散歩道〉があります。11月15日、市の文化財保護審議会委員の鈴木功さんの案内で立川在住の方たちと散歩道のひとつ、立川の古村を歩きました。

古村といえば本村（ほんむら）と呼ばれる柴崎町周辺。立川駅から柴崎町2丁目、1丁目を抜けて富士見町にある歴史民俗資料館まで、約2時間のコースでした。普段、目にしていても足を止めることがなかった文化財や遺跡。重なり合った歴史の片鱗に、昔が今あるのだと感じます。1200年前にたてられたといふ諏訪神社。武藏野の雑木林がうっそうとした鎮守の深い杜を作っていました。やがて玉川上水から分水が引かれ、千木のほとりに小川が流れています。今はその碑がたつだけです。閑静な住宅地に突如現れる大きなケヤキ。樹齢700年ともいわれる天然記念物は、武藏野の野火で焼失したという八幡神社の御神木です。多くの文化財を擁する普済寺に立川唯一の国宝「六面石幢」もありました。



柴崎分水にそって進めば、庚申塔や常夜燈に古の暮らしがしのばれます。歴史を振り返って新しい年を迎えていく、そんな初冬の散歩でした。歴史と文化の散歩道の案内地図〈立川を歩く〉は、立川歴史民俗資料館で購入できます（300円）。

この人この店 ⑥

化粧品の OZAWA

店主 小澤静子さん



〒190-0021 立川市羽衣町2-31-1
TEL 042-522-3749
<http://www.annex-tachikawa.com/ozawa/>
営業時間 AM10:00~PM7:30
定休日 日曜・祝祭日



小澤さんおすすめのマッサージクリーム。
1回分に7gも入っている。

写真:松本賢子

※前号掲載のアジアンフーズの電話番号が12月より変わります。
新しい番号は042-535-0876です。

タチカワ誰故草 ⑥

巨匠にしか見えない光

森 忠明

私の無給第一秘書をしている恵子さんが、前号の「えくてびあん」を手にして、「森センセイのエッセイより『川の肖像』の画家さんの文章のほうが良いわ。ふふふ」首を少しきめて笑った。口惜しいけれど同感だったので反論しなかつた。給料を払っていないと言いたいことを言わせててしまうのである。彼女はもともと私の詩と童話のファンで、ながらく追っかけをして許可した。すると「弟子はイヤ。秘書ならヤル」とのことなのであった。

追っかけ、と言えば、本誌の「表紙の人」を撮りつづけておられる細江英公氏に憧れつづけて丁度四十年になる。

昭和三十七年（一九六二）、立川二中二年生の、柴崎分水にそって進めば、庚申塔や常夜燈に古の暮らしがしのばれます。歴史を振り返って新しい年を迎えていく、そんな初冬の散歩でした。歴史と文化の散歩道の案内地図〈立川を歩く〉は、立川歴史民俗資料館で購入できます（300円）。

最初の「美の襲撃」（三島由紀夫）を受けたのだ。

中学生を演じていても、夜には性的妄想に惑乱され、それを宥めるたまに清水正二郎ばかりのエロ小説を書いていた。しかし、女心はおろか女体も知らなかつた十四歳の作家には限界があり、深いボイドに陥るほかない。

そこへ「おとこと女」の閃光的露開。（ここからは自己劇化や美化、

事件化のためにウソを書くおそれがある。注意せねば——）と思いつつも、あの一刻の驚愕を、大仰と腐されてもかまわぬ表わし方をしてしまおう。

つまり、「おとこと女」に現成した人体の、その存在（存在者ではなく）の高貴と凄怪と独特的有情滑稽（無情酷刑かも）によって、中学二年生の私の性地獄は一挙に革新され、自分がいかに低次元にいたのかを覚ったのだった。

（土方巽が悪魔に憑かれれば、細江英公がカメラによって悪魔を祓う。しかし、そのカメラ・アイも、だんだんと憑かれた目になってきて、やがてはどちらが悪魔に憑かれているのか、どちらが悪魔を祓っているのか、判然としないよう塩梅になつて行くかのことである。）（瀧澤龍彦『天使たちの饗宴』・細江英公『鎌鼬』評）というような鬼族的秘儀により、私の悪魔祓いも立川市立第二中学校時代に済んでいたのである。

私は、こんな夢みたいなこともあるんだなあ、と陶酔感に溺れていた。撮影を終えた世界的巨匠は、付き添いの立井啓介氏（本誌前編集長）と私に向かい、「あそこからの光……とてもいい」、やや恍惚ぎみにおっしゃった。私にはありふれた午後二時の木洩れ日だったし、立井氏にも同様だったらしく、巨匠以外の二名はポカンと顔を見合わせただけであった。



挿画:野崎義成

表紙の人

稻葉美和さん（一番町）

4歳のころより生田流箏曲を始め、NHK邦楽技能者養成会を修了。古典から現代曲までの箏曲のほか、作・編曲、ジャズ、即興理論を学び、邦楽、洋楽を問わずさまざまなジャンルのアーティストとのユニットで演奏活動を活発に行っている。伝統的な十三絃のほか、低音の十七絃、二十絃の箏を自在に使い、古くからあるくお琴〉という楽器から、現代のく絃の楽器〉としての豊かな表現と、清新な生命を紡ぎ出している。

西砂町「ギャラリー 蘭」にて
写真:細江英公

かたこと

定期刊行物というのはおかしなもので、この文を書いている時点ではまだお正月は先のことなのに新年最初の号ですので、まずは、明けましておめでとうございます▼新年号にふさわしく表紙の人は箏奏者の稻葉さんです。演奏をお聞かせできないのが残念ですが、和服で毛氈の上というスタイルではないところに新しさを感じていただけでしょうか?▼森忠明さんの「タチカワ誰故草」、今回は表紙の撮影をしていただいている細江英公のこと。人間はみんなどこか不思議な縁で結ばれているのかもしれません▼VIEWと多摩川さんは奇しくも自転車の話題が重なりました。春にはフランスで競技生活に入る畠中さんの青春に心から声援を送ります。そして競技の厳しさはなくとも、体力に応じて多摩川べりを自転車で走るのも楽しいですよ▼対談のおみえりさん、「この人この店」の小澤さん、自然体なのにとっても元気にいろいろなことで活躍されている女性たちを見ていると、男もうかうかうじうじしてはいられません▼本年もなにぞよろしくお願い申し上げる次第の「えくてびあん」です。（芳）

スタッフ

編集 大久保清志／清水恵美子／中薫子
デザイン ウォーターデザインアソシエイツ 池田隆男
AMNET design factory
写真 五来孝平／松本賢子

えくてびあん (C) 1月号

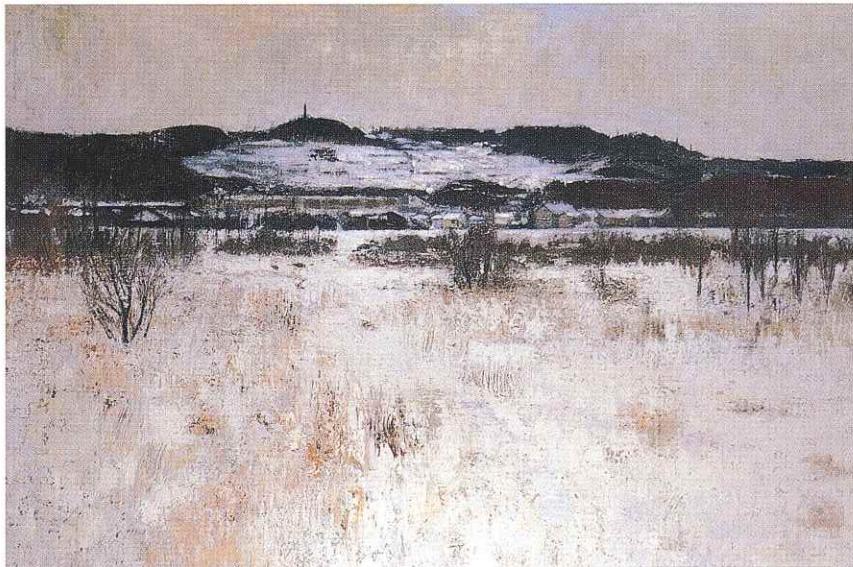
第22巻 通巻230号
平成元年1月1日発行
発行 えくてびあん編集工房
〒190-0012
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
編集人 芳賀敏也
発行人 加賀悦也
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。



◆◆◆ 川の肖像 ◆◆◆

知久正義の世界 [6]



「多摩丘陵遠望」

1999年 100P

一九九九年は近年珍しく大雪が降った。多摩川畔も一面の雪景色と化した。ゴム長をはき、キャンバスを道路沿いの土手の上まで運んで描いた作品だ。

多摩丘陵を望むこの場所は、自然の広大さと丘陵を切り取つた人為的景観の綾なしに現代的な興趣があり何度も描いているが、雪はその景観を一変させていた。それは、無駄なものをそぎ落とした姿であり、私の心に鮮明に刻印されたものだ。

厳しい雪国とは違ひ、雪原とはいえわずかに出でてゐる枯れ草があり、葉を落とした木々がリズミカルに立つていて、多摩川の雪はどうに丘の上の給水塔へと収斂していった。

こか温かい。大地は一層広がりを増し、あらゆる生命を象徴するよう